
WJUA/JSPU コラボ企画

人生 100 年を過ごすための小児泌尿器科疾患診療

座 長 林 祐太郎 (名古屋市立大学大学院医学研究科)
里 地 葉 (熊本市市民病院)

司会のことば

第 76 回西日本泌尿器科学会総会のテーマは「人生 100 年時代の泌尿器科学」でした。人生 100 年という長い期間をいかに元気で健やかに生きていくか、それをサポートする我々医療者には新しい視点や知識が求められています。「人生 100 年を過ごすための小児泌尿器科疾患診療」は、西日本泌尿器科学会と日本小児泌尿器科学会の共同企画です。人生 100 年時代の医療というと高齢者医療を想定されるかもしれませんが、その人生には必ず小児期が存在します。今日のこどもは将来の大人であり、小児期をいかに健康に過ごすかが将来の生活の質にも関わってきます。

健康寿命に欠かせない身体機能は複数ありますが、腎機能はその最たるものといって過言ではありません。また排尿という毎日の生活上欠かせない行為を、ストレスなく適切に行えることは身体機能の維持だけではなく精神発達においても重要です。さらには、多様性の時代であり人生の選択肢は広がっていますが、希望するタイミングで子をもうけ次世代に命をつなぐための生殖機能・性機能も人間にとっては不可欠です。

先天性尿路疾患の多くが機能障害のリスクを伴います。腎機能を温存した状態で人生 100 年時代のスタートをきることが重要であり、それを担っているのが小児泌尿器

科診療です。また小児期の陰部の外観や排尿機能障害はこども達のアイデンティティーの確立や自尊心にも関わります。自己肯定感をもって人生をスタートしてもらいたいというのが小児泌尿器科医の願いです。

今回の共同企画では、西日本地区から 6 名の医師が、日本小児泌尿器科学会の 2 名の理事の先生 (杉多編集委員長・宋国際委員長) とともに、通常の泌尿器科外来で遭遇することの多い小児泌尿器科疾患について、最新情報と忘れてはならないキーポイント、そして青年・老年期への影響などについて講演しました。また、基調講演として釜山大学の Jae Min Chung 先生から VUR に関する知見と治療成績をお話いただきました。

当日会場に足を運んでくださった先生方も講演を聴けなかった先生方も、各演者の Proceedings に目を通していただき、あらためて小児泌尿器科疾患やその診療、成人期との関わりについてご一考いただければ幸いです。

日本泌尿器科学会の会員数は 9,000 人以上ですが、小児泌尿器科学会の会員はその 1 割程度です。小児泌尿器科分野を特殊分野と感じ、苦手意識を持つ先生方も多いかもしれませんが、0 歳の新生児から 100 歳を超える方まであらゆる年齢の患者さんを診ることができるのが泌尿器科医の醍醐味です。本企画を通して少しでも小児泌尿器科診療を身近に感じ、明日からの診療で小児に関わっていただきたと思います。